

春の日差しにあたたかさを感じる今日の良き日に、第65期生の皆さんが晴れて卒業証書授与式を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。本日、皆さんが義務教育を終え、新たな一步を踏み出すこの日に、校長として皆さんの門出を祝えることを大変うれしく思います。

また、早朝よりご臨席賜りましたご来賓の皆さまに、厚くお礼申し上げます。

私は今年、淀川中学校に着任したばかりで、皆さんと過ごした時間は決して長くはありません。しかし、その短い期間でも、皆さんが真剣に学び、仲間と力を合わせ、悩みながらも確かな成長を遂げていく姿を見守ることができました。体育大会での圧巻のソーラン節、修学旅行での夜のレクリエーション大会、文化祭での合唱——どれも「どうすれば皆が楽しく取り組めるか、学校生活をより良くできるか」を自分たちで考え、行動した成果でした。

先ほど一人ひとりにお渡しした卒業証書には、私自身が皆さんの名前を手書きで記しました。筆を進めるたびに、毎朝登校時に元気に挨拶してくれる姿や校長面接での少し緊張した表情が思い浮かび、胸が熱くなりました。ご家族が願いを込めて与えたその名前に、これから皆さん自身がさらに新しい意味と価値を重ねていくのだと思うと、誇らしい気持ちでいっぱいです。どうかその名前を大切に、胸を張って歩んでください。

さて、皆さんがこれから進む道には、楽しいことばかりではなく、迷いや悩み、つまづくこともあるでしょう。しかし、皆さんは三年間で、困難に向き合い、乗り越える力をしっかりと育ててきました。どうか自分を信じ、その力を発揮してください。

そして今日から皆さんは、この地域の一員としても新たなスタートを切ります。淀川の流れのように、多くの人の暮らしや文化が交わるこの地域は、皆さんを見守り育ててくれた場所です。通学路で声をかけてくださった地域の方々、行事を支えてくださった多くの大人たち——皆さんは、たくさんの温かいまなざしに支えられて成長してきました。

その地域で生きていくうえで、私が特に大切にしてほしいと思うことがあります。それは—— **挨拶** です。

挨拶は、もっとも小さく、もっとも身近で、そして確かな人とのつながりです。「おはようございます」「こんにちは」といった言葉は、自分の存在を伝え、相手を尊重していることを示します。

そしてもう一つ、大切にしてほしい言葉があります。

それは、「ありがとう」と「ごめんなさい」です。

「ありがとう」は、人の優しさに気づき、それを素直に受け取る心を育てます。  
「ごめんなさい」は、自分の非を認め、関係をより良くしようとする勇気ある言葉です。

そして、どの言葉にも共通している大切なことがあります。  
それは—— **口に出さないと言葉は伝わらない** ということです。

心の中で思っているだけでは、相手には届きません。声にして初めて、人と人はつながります。だからこそ、挨拶も、「ありがとう」も、「ごめんなさい」も、勇気をもって言葉にしてください。

この三つの言葉——「おはようございます」「ありがとう」「ごめんなさい」は、皆さん自身を成長させ、地域をあたたくする力を持っています。皆さんが挨拶を交わすことで、地域の人々は安心し、笑顔になります。そしていつか、皆さんが大人になったとき、今度は皆さん自身がこの地域の未来を支えていく側になります。どうかこの町で育った誇りを胸に、地域とともに歩み続けてください。

また、困ったときや悩んだときには、どうか一人で抱え込まず、周囲を頼ってください。家族がいます。友だちがいます。そして先生たちも、これからも皆さんを応援し続けています。頼ることは弱さではなく、前に進むための大切な力です。

最後に、皆さんに一つだけ私の願いをお伝えします。どうか**自分を大切にしてください**。自分を大切にできる人は、他者を思いやり、支え合うことができます。その力こそが、皆さんの未来を明るく照らすものとなるでしょう。

保護者の皆さま、本日はお子さまのご卒業、誠におめでとうございます。三年間、お子さまを温かく見守り、励まし、支えてこられたご家庭に心より敬意を表します。喜びも心配も、ときには悩みもあったことと思います。その一つひとつの積み重ねが、今日の立派な姿につながっています。どうかこの節目の日に、お子さまの成長を存分に喜び、これからの歩みに温かい声援を送り続けていただければと思います。本校教職員一同も、皆さまのご家庭をこれからも応援してまいります。

卒業生の皆さんの未来が、希望と喜びに満ちあふれるものであることを心より願い、式辞といたします。

令和8年3月13日

大阪市立淀川中学校長 尾曾 由里子